

金沢市立内川中学校

平成 25 年度後期 学力向上の取組

1 学力の現状分析・検証・今後の取組

(H25 年度石川県基礎学力調査及び全国学力・学習状況調査の結果をふまえて)

	学力の現状分析	前期までの取組の検証	後期に向けての取組
国語	<p><基礎・基本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年間に差はあるものの、漢字の読み書きの習熟については概ね良好である。 <p><活用・応用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いつきの発言・発表をする生徒が少なからずいる。 ・課題にそって自分の考えをまとめ、長文で記述する力が十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月ごとに漢字テスト・再テストを繰り返した結果、漢字の読み書きの力に定着が見られた。 ・根拠を明確にして意見を述べさせるようにしてきたことで、学年が上がるほど論理的思考力が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の漢字練習を継続していく。 ・発表の際は、根拠を挙げて述べさせる。 ・書く活動を多く取り入れる。
社会	<p><基礎・基本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力は概ね身につけている。傾向として地理分野が得意である。 <p><活用・応用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに文章を書く力や、複数の資料から読み取ったことを記述する力が十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの活用や小テスト等を実施し、基礎的事項を繰り返し学習した。 ・資料の活用力は、教師の支援をもととした気づきはあるが、自ら思考・判断・表現する力はまだ十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着をさらに図るため、生徒の実態に即したワークシートを作成する。 ・思考力・判断力・表現力を育てるために、グループ分けを工夫し、発表しやすい環境づくりを行うことにより、主体的活動場面を多くする。
数学	<p><基礎・基本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎計算や方程式・関数については十分理解しているが、文章による表現についてはやや苦手である。 <p><活用・応用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次関数や方程式についてはよく理解している。予想し表現することについてはやや苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生は4月から、3年生は7月から基礎学力定着のための小プリントに毎日取り組ませた。繰り返し取り組ませることで全体の基礎学力は向上している。 ・授業中に説明させる場面を増やし、表現力の向上を図ってきた。自分の考えを説明する力についてはついてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着のための小プリントを継続する。 ・論証の力の向上のため、授業中に考えを説明させる場を設定する。 ・より簡潔で効果的な説明や表現の方法について学習する。
理科	<p><基礎・基本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現象を実生活と結びつけ、科学的に考える力に課題が見られる。また学習の基盤となる「表現し伝える力」のさらなる育成が必要である。 <p><活用・応用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の習得において基本となる言語能力、活用力については十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にスケッチ活動や実験レポート作成・研究活動を取り入れ「表現し伝える力」の育成に重点を置いた学習活動を行った。自分の意見や考えをまとめる力が向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生は、学力の基礎となる学習の基盤を確立するため、基礎的な事項を確認し、学習内容を確実に身につけさせる。 ・発展・応用力を定着させ総合力を高めるため、ワークシート、レポート活動を充実させる。
英語	<p><基礎・基本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法の知識があまり身につけていない。 <p><活用・応用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・別の英文に言い換える力が、十分とは言えない。 ・場面に応じた英文を考えたり、テーマにあった英文を書くということが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文にマークをつけて、文の構造を確認する練習をしてきた。英文の構造を理解し始めている。 ・単元ごとに重要文を中心とした作文テストを行っている。英作文も含め、「書く」場面を多く設けてきたので、量や表現力に差はあるが、生徒は皆、英文を書くことに抵抗がなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文のマーク付けを継続して行い、英文の構造の理解を助け、作文活動につなげていく。 ・少人数を生かし、活動や発表の場面で全員に英語使用の機会を設ける。

2 学校としての共通した取組

(1) 小学校と連携し、授業規律の定着をはかる。

ア 本校は内川小学校との併設校であり、共通の「学習基盤」を設定して＜授業への準備＞＜読む力＞＜聞く力＞＜伝える力＞＜学び合い創る力＞について共通認識を持ちながら、教科ごとに生徒の発達段階に応じた育成に努めている。

イ ＜授業への準備＞については、学習規律、家庭学習の定着などについて重点的に指導し、7月と12月に生徒・教職員・保護者対象にアンケートを行い、生徒の意識向上や、教師の指導改善につなげている。7月に行ったアンケートから見えた課題については次のように取り組んでいる。

(ア) 学習規律は全体的にルーズな面が見られる。教室に学習規律について示した掲示物を貼り、共通理解を図って指導するよう心がけている。

(イ) 家庭学習定着のために、今年度は家庭で学習する際の各教科のアドバイスを示した、「家庭学習の手引き」を作成し活用している。また、家庭での学習習慣をつけるために「学習時間記録表」を用いて、適切な家庭学習の習慣が身に付くよう指導している。

(ウ) 学力の定着をはかるため、今年度は全学年でテスト結果を生徒自身が分析することで、次の学習に生かすよう指導している。

(2) 少人数を生かした授業展開を工夫する。

ア 本校では、昨年度の取組を更に深めるため、今年度も、少人数を生かした表現活動や体験活動の機会を取り入れた授業展開の工夫を共通の取組としている。前期の取組について振り返り、今後以下のように取り組むこととしている。

	少人数を生かした表現活動や体験活動の機会を取り入れた取組	反省及び今後の取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・設問には全員に発言の場を与える。 ・【書くこと】【話すこと・聞くこと】などの表現単元において、異学年間で互いの発表を聞き合い相互評価し合うなど、交流し高めあう授業を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に差があるが、思いつきで発言・発表する生徒もいるので、意見発表では、教科書の中でその根拠となる事項を見つけさせる。 ・表現単元において、異学年間で互いの発表を聞き合い相互評価し合える交流授業を設定する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン等を使用し、人物などの調べ活動を行い、互いに発表させる。 ・ポスターセッション形式の授業やディベート的な授業を構築・実践し、全員が発表する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は積極的に自分の考えを発表していた。相互に影響を与えるような思考の深まりをめざすには、事前準備の時間を確保することが必要である。 ・3年の公民分野では世論を二分するようなテーマでのディベート的学習をさらに模索していく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で少なくとも1回は発言する場を設けるようにし、口頭での数学的な表現力の向上を図る。 ・ノートやワークブックなどの記述の仕方を点検し、個々の発想や表現をできるだけ活かしながら、適切な記述ができるように指導する。 ・一人一人に意見を述べさせ、一つの課題に対して多面的に考察できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力差が大きく、まだまだ十分に対応できたとはいえない。生徒一人一人の状況に応じた対応ができるように更に工夫をしていく。 ・興味・関心がもてるような課題を設定し、自分なりに考えさせ、その内容を論理的に説明させることで、さらに思考力・表現力の育成を図っていく。 ・教え合い学習を取り入れているが、今後も効果があると思われる場面で積極的に取り入れ、全体の学力向上を図っていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に個人レポート発表や研究活動を行う。 ・校区の自然を生かし、野外活動を行いながら学習する機会を持つ。 ・一人単位の実験、レポート作成など個人での活動を極力増やした学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の知識や国語力、理科の他の分野の既習事項などを総合して問題を解決する力が不足している。 ・少人数をいかして、思考力を高めるための工夫を行う必要がある。 ・演習では個別につまづきを把握し、アドバイスするなどの取り組みが必要である。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、英単語でのビンゴ活動をし、大きな声で英語を発する練習をし、個々に発音指導をする。 ・单元ごとに、重要文を使って英文を作る練習をし、全員で発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビンゴを発話するだけでなく個人の発音指導の場としても活用していく。 ・できるだけ毎時間英作文の時間を作り、また発表する時間を設け、相互評価し、それぞれの表現力アップの助けとしていく。